

3) 年齢層別陽性アレルゲン数	
10歳代	4.5種
20歳代	4.1種
30歳代	3.7種
40歳代	3.1種
50歳代	2.5種
60歳代	1.6種

スギ花粉症と自己診断している対象にアレルギー検査を実施したところ、スギのみならず、ヒノキ、カモガヤにも陽性を示した症例が約1/3以上あり、2月～7月まで花粉症の症状を訴える可能性が通年性ダニやハウスダストにも約半分の感作が認められ、花粉だけでなく室内抗原を疑ってみることも重要です。

また花粉の飛散時期が長い、ハンノキにも注意が必要です。ブナ目、カバノキ科に分類されるハンノキは落葉高木で樹高は15～20m、直径60cmほどです。湿地、湿原や池沼のまわりに自生見られますが、公園などにも植えられており日本各地に分布し身近で見られます。

ブナ目では、ほかにシラカバ、コナラ、ブナなどがあります。ハンノキはスギより早く1月から3月に花粉を飛散させます。その他の樹木もだいたい1月から5月にかけて花粉が飛ぶため、スギやヒノキに隠れて見落としがちになります。

ハンノキはPFAS (pollen-food allergy syndrome) を引き起こしやすい花粉です。

花粉に感作された患者さまが、果物、野菜、ナッツ類などを食べると15分以内にその食物に接した口・唇・口腔に、腫れやイガイガなど不快感がおこる口腔粘膜アレルギー症状です。この食物アレルギーは花粉アレルゲンと野菜や果物などの植物性食物アレルゲンに共通するコンポーネント(タンパク質)によって生じるものと考えられています。また、感作を成立させるアレルゲンと症状を誘発するアレルゲンが別であることから、クラス2食物アレルギーとして通常食物アレルギー(クラス1)と区別されます。

ハンノキはこのPFASを引き起こしやすく、リンゴ、モモ、メロンなどに注意が必要です。

鼻アレルギー患者さまにおけるハンノキ感作例の54.8%にPFAS既往があり、ハンノキ特異的抗体価IgEが高いほどPFASの頻度が高いと報告されています²⁾。

鼻や眼のアレルギー様症状を持つ患者様には是非アレルギー検査をご活用ください。

【花粉症、アレルギー性鼻炎・結膜炎にお勧めのセット】

CAP16 鼻炎・喘息 (項目コード2440)

季節性抗原 (花粉飛散時期)	通年性抗原
スギ (2-4月)	ハウスダスト1
ヒノキ (3-5月)	ヤケヒョウヒダニ
ハンノキ (1-5月)	ネコ皮膚屑
カモガヤ (5-8月)	イヌ皮膚屑
ブタクサ (8-10月)	カンジダ
ヨモギ (8-10月)	アスペルギルス
ガ (初夏・秋)	アルテルナリア
ユスリカ (初夏・秋)	ゴキブリ

【参考文献】

- 1) 耳鼻臨床94, 2001
- 2) アレルギーの領域 5(6) 761-765, 1998

「2」 KMLインフォメーション 1月～3月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けして

おりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2023年 1月13日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0113.pdf>

2023年 1月26日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0126.pdf>

2023年 1月31日 T-SPOT.TB 容器変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0131.pdf>

2023年 2月17日 検査受託再開のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0217.pdf>

2023年 2月21日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0221.pdf>

2023年 3月 3日 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2023-0303.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0042 神奈川県川崎市宮前区南野川 3-22-1

= = = = = □ ■